

び乱流風洞気流の風速，湿度，温度センサー等合計55センサーからの信号を受け，変換器を通して土壤水分，風速，湿度，温度等の物理量に変換している。これらのデータ処理と蒸発散のシミュレーションのため1台のワークステーション，3台のパソコンおよびスーパーコンピューターとがネットワークで結ばれている。

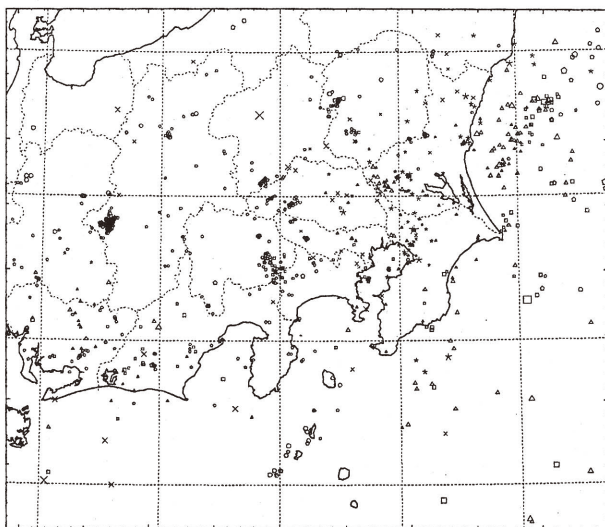
なお，平成4年度に既に完成した地表面近くの大気の諸条件を制御できる乱流風洞は回流型（ゲッチゲン型）で，測定部は幅1m×高さ1m×長さ3m，温度・湿度が可変であり，その制御範囲は，風速範囲3～10m/s（温湿度制御を行わない場合は，0.1～15m/s），温度範囲12～35°，湿度範囲30～85%である。

この施設の完成により蒸発散現象の解明が進み，水文素過程の解明のみならず温暖化による降水量の変動予測，災害ポテンシャル予測のための地域水文過程モデルの構築に貢献するものと期待されている。

（気圏・水圏地球科学技術研究部 岸井 徳雄）

7月の地震活動

マグニチュード（M）4以上の地震は4個観測された。このうち2個はともに20日に発生した，千葉県東方沖の地震（20日10時58分，深さ28km，M4.6）と千葉県北部の地震（20日13時31分，深さ72km，M4.3）であった。残る2個は深発地震であり，ひとつは群馬県北西部の地震（10日06時12分，深さ



149km，M4.3），もうひとつは紀伊半島南東沖の地震（23日06時25分，深さ397km，M4.0）であった。

長野県西部の群発地震活動地域では107個の地震が観測され，このうちの最大地震はM2.5（7日02時59分，深さ9km）であった。

国際交流

7.22～7.24 東浦 将夫（新庄雪氷防災研究支所長）第2回国際地下水人工涵養に関するシンポジウムに出席し，論文発表を行うと共に，意見交換を行うため（アメリカ）

8.1～8.31 森脇 寛（防災総合研究部気象防災研究室長）日英科学技術協力協定「洪水と地すべり」に関する情報交換および地すべり研究調査のため（イギリス）

8.6～8.16 東 久美子（長岡雪氷防災実験研究所主任研究官）地球環境変動に対する雪氷圏の役割に関する国際シンポジウムに出席，氷雪コアの化学分析による過去の地球規模の気候，環境変動等に関する研究論文の発表を行うため（アメリカ）

主な来訪者

- 7月6日（水） 社日本計量機器工業連合会
- 7月12日（火） 川鉄商事(株)テールアルメ工法技術部ほか
- 7月13日（水） (株)テクノソール技術部ほか
- 7月14日（木） 国家科学委
（中国科学技術交流中心）
- 7月21日（木） 三井業際研究所
（三井企業グループ）
- 8月1日（月） 国土庁大都市圏整備局特別整備課

編集兼 防災科学技術研究所

発行 〒305 茨城県つくば市天王台3-1

TEL (0298) 51-1611 (代)

（再生紙使用）